

# 『2024 年度防災フォーラム・北見』実施報告

## Report on the “FY2024 Disaster Prevention Forum in Kitami”

白川 龍生<sup>1</sup>

1, 北見工業大学

Tatsuo Shirakawa<sup>1</sup>

1, Kitami Institute of Technology

### Abstract

This report summarizes the FY2024 Disaster Prevention Forum in Kitami, organized by the Hokkaido District Natural Disaster Science Data Center and held at Kitami Institute of Technology on March 27, 2025. The forum aimed to share knowledge on recent heavy rainfall disasters in Hokkaido and to discuss common mechanisms of damage to rivers, bridges, and road infrastructure. A keynote lecture by Professor Yasuharu Watanabe reviewed past flood disasters based on extensive field investigations and highlighted the importance of understanding riverbed changes and integrated infrastructure management. Active discussions followed the lecture, reflecting strong interest among researchers, students, and local stakeholders. The forum also served as Professor Watanabe’s final lecture, concluding with a bouquet presentation and warm applause from participants.

*Key Words: Disaster Prevention Forum, Heavy Rainfall Disaster, River Infrastructure, Hokkaido*

キーワード：防災フォーラム, 豪雨災害, 河川インフラ, 北海道

## 1. はじめに

自然災害科学協議会 北海道地区部会では、自然災害に関する調査研究成果の共有および、防災・減災に資する知見の普及を目的として、毎年、各地で防災フォーラムを開催している。本報告は、同協議会主催により、2025年3月27日に北見工業大学において開催された『2024年度防災フォーラム・北見』について、その開催概要および講演内容を整理し、今後の防災研究および地域防災の取り組みに資することを目的として取りまとめたものである。なお実施に際しては、北見工業大学 地域と歩む防災研究センター（SAFER）の後援を得て実施した。

## 2. 開催概要

本フォーラムは、北海道内で頻発する豪雨災害を対象に、その被災実態と発生メカニズムを共有し、今後の防災・減災対策に関する知見を深めることを目的として実施された。会場には研究者、学生、自治体関係者など約38名が来場し、開始時刻前から資料に目を通しながら意見交換を行う姿が見られた。講演中は、スライドに示される被災写真や図表を熱心に見入る参加者の姿が多く、北海道の豪雨災害に対する関心の高さがうかがえた。

### 3. 講演の位置づけ

本フォーラムでは、北見工業大学工学部社会環境系教授 渡邊康玄先生（専門：河川防災工学・土砂水理学，写真1）による講演「北海道の豪雨災害を振り返って」が行われた。本講演は、北海道内でこれまでに発生した複数の豪雨災害について、現地調査や解析結果をもとに整理したものであり、河川・橋梁・道路といった社会インフラの被災形態を横断的に捉え、その共通要因を明らかにすることを目的としている。

なお、本講演は渡邊教授にとって最終講義として位置づけられたものでもあり、これまでの研究活動および現地調査の成果を総括する内容となっていた。



写真1 渡邊康玄教授

### 4. 講演内容

#### 4-1 北海道における豪雨災害の特徴

講演冒頭では、1980年代後半以降に北海道内で調査が行われた豪雨災害事例が概観された。

特に、2015年10月の低気圧による豪雨、2016年8月の北海道豪雨、2018年7月豪雨などの事例では、短時間に集中した降雨により、流域規模の大小にかかわらず急激な水位上昇が生じ、各地で破堤や氾濫が発生していることが示された。

降雨分布図や出水状況を示したスライドを用いた説明により、台風や停滞前線に伴う広域的な降雨と、局地的な集中豪雨が複合的に作用している点が明確に示され、参加者は聞きながら説明に聞き入っていた（写真2）。



写真2 講演の様子

#### 4-2 小規模河川における破堤事例

次に、小規模河川における破堤事例として、サラカオーマキン川、東里川、柴山沢川などが紹介された。これらの河川では、流域面積が比較的小さいにもかかわらず、急激な流量増加により堤防が破壊され、周辺農地や道路に被害が及んでいる。

空中写真や現地写真を交えた説明からは、河道断面の制約、局所的な洗掘、堤防断面の脆弱性といった要因が重なった結果、被害が顕在化したことが理解しやすく示され、会場では具体的な被災状況を共有する場となった。

#### 4.3 橋梁被害と河床変動

橋梁被害に関しては、段丘部や谷底平野に位置する橋梁を中心に、河床低下や局所洗掘が橋台・橋脚に及ぼす影響が整理された。

河道の移動や長期的な河床変動により、橋梁基礎部の安定性が低下し、結果として橋梁被害や

通行障害につながった事例が報告された。過去の地形変化や河道履歴を踏まえることの重要性が強調され、参加者からも実務的観点に基づく質問が寄せられた。

#### 4.4 道路・盛土被害と氾濫流

道路被害については、盛土部の浸食や路体の流失が多く確認されていることが示された。河川氾濫水や越流による側方浸食に加え、谷底平野における氾濫流では、洪水流の主流線の変化や流木の影響が被害を拡大させる要因となっている。

現地写真や模式図を用いた説明により、河川と道路が近接する箇所では、河川管理と道路管理の連携が不可欠であることが具体的に示された。

### 5. 得られた知見と今後の課題

本講演を通じて、北海道の豪雨災害に共通する以下の点が明らかとなった。

- 河道変化や河床低下といった長期的プロセスを踏まえた管理の重要性
- 小規模河川であっても甚大な被害に至る可能性
- 河川・橋梁・道路といった管理主体間の連携の必要性

これらの知見は、今後の防災・減災対策を検討する上で重要な示唆を与えるものであり、流域全体を視野に入れた総合的な対応が求められる。

### 6. おわりに

講演終了後には、渡邊康玄教授に対して花束が贈呈され、会場からは盛大な拍手が送られた（写真3）。長年にわたり北海道の河川防災および豪雨災害研究に尽力されてきた功績に対し、参加者一同が敬意を表する場面となった。

本防災フォーラムは、北海道内の豪雨災害を多角的に捉え、地域防災の課題を共有する貴重な機会となった。今後も、研究機関が有する知見を社会に還元し、地域と連携した防災・減災の取り組みを継続していくことが重要である。



写真3 花束の贈呈

### 参考文献

- (1) 北見工業大学 地域と歩む防災研究センター：公式ウェブサイト,  
<https://kit-safer.com/> (2026年1月15日閲覧)